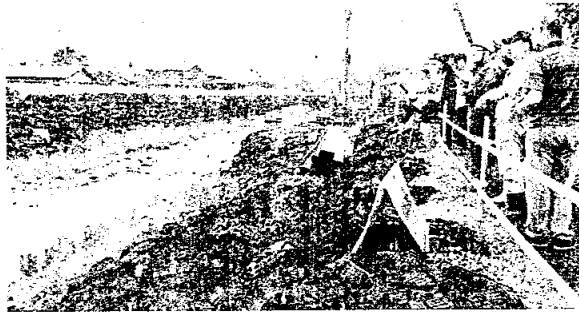


護岸など復旧状況点検

行政、住民ら 豪雨二次被害防止へ

朝倉市

2017年7月の九州豪雨などで被災した朝倉市で梅雨や台風が襲う出水期に二次災害が起きないように、復旧工事に当たる関係行政機関担当者らと住民がともに状況をチェックする一斉点検が28日、被害が大きかった各地であった。



袋詰めされた石を積み重ね、復旧工事がなされた赤谷川を見て回った一斉点検

豪雨から2年近くたつが、壊れた河川護岸や崩れた山などは、今も工事中や応急措置にとどまる箇所がたるとる。国、県、市などのほか、地元コミュニティ協議会や区会長ら約80人が参加。砂防堰堤、急傾斜地なども含め約30カ所を3班に分かれて見て回った。

杷木地区や松末地区などを巡る班は、国が復旧を進める赤谷川に到着。袋詰めされた石を護岸に積んでいる状況などを確認した。杷木コミュニティ協議会の泉後三会長は「梅雨をどう乗り切るか。水を供給する浄水場周辺の護岸をもっと守ってほしい」。東林田区の林新吾区会長も「安全で住民が親しめる川を早急に造っ

てほしい」と語った。一方、白木谷川支流では河床を重機で掘る工事中。

梅雨の間も工事は続くとい、白木区の石井博喜区会長は「土砂や流木はまだ流れてくる。大雨の時は、夜は避けて昼間に避難するよう地元では話している」と住民の心構えを行政側に説明していた。

市によると、一斉点検で分かった問題は改善するよう関係機関に働きかける。ほか、今後も梅雨入りまでに住民の声を聞いてこまめな点検を続ける。市役所で3班から点検の報告を聞いた林裕二市長は、「復旧事業は道半ばだ。安全が確保されている状況とは言えず、(大雨などの際は)躊躇なく避難勧告などを発令する」と述べた。(末広浩)

5/29 毎日新聞

雨点 豪雨 北部被災

朝倉市が一斉点検

30カ所異常は確認されず

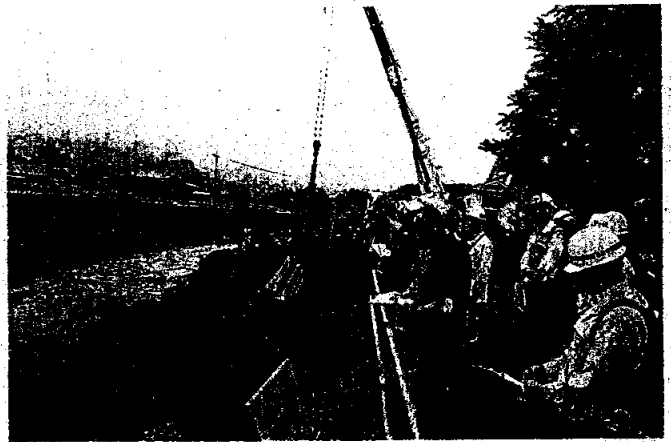
川が増水しやすい時期を前に、朝倉市で28日、九州北部豪雨で被災した場所の一斉点検があった。市や自衛隊、消防、警察、住民らが集まり、道路や川、砂防施設など約30カ所を見回った。市によると、大きな異常は確認されなかった。約80人が3班に分かれ、2017年7月の豪雨で氾濫した赤谷川や石川、地滑りが起きた同市杷木志波の平榎地区などを点検した。市によると、土のうが置かれるなど応急措置がされた場所も多

く残るが、新たに損壊した場所などはなかった。

【平川昌範】

豪雨被災地 梅雨控え点検

朝倉市、国などに呼びかけ32カ所



復旧工事の現場を点検する住民たち＝朝倉市

2017年7月の九州北部豪雨で被災した朝倉市は28日、国や県、住民らに呼びかけ、復旧が終わった山腹や、応急復旧工事が続く河川などの32カ所を一齐に点検した。まもなく梅雨の時期を迎える。関係機関の担当者が連携し、それぞれの視点から安全性をチェックしていった。

九州森林管理局、自衛隊、県朝倉農林事務所、県警、甘木・朝倉消防本部などの担当者約80人。被災の規模が大きかった市東部にある道路や河川、砂防、治山の現場が点検の対象だ。そのエリアにある八つの地域コミュニティ協議会の地区住民も参加した。

一行は杷木・松末地区、高木・志波地区など、三奈木・朝倉地区などに向かう

3グループに分かれて出発。このうち、杷木・松末地区の約20人が向かった赤谷川の最下流域では、河道に土砂がたまっていないか、護岸の袋詰め玉石が適切に積み上げられているかなどを点検した。恒吉徹・市復興調整官は県の担当者に「水位が上がると川岸の立ち木が巻き込まれて危険

では」と、検討を促した。同行した林田区会長の吉岡昭夫さん(63)は「九州北部豪雨で多くの家屋が全半壊した。流木が次から次に流れ、恐ろしい風景だった。もうすぐ梅雨だが、住民の視点を生かしたきめ細かな対応をしてほしい」と語った。

(徳山徹)